



第5号 平成12年12月1日発行
<発行所>
関西合気道競技連盟広報部
<発行責任者>
中村芳勝(広報部長)
<編集>
昭道報編集係

「二人の道兄の思い出を偲ぶ」

日本合気道協会 師範 成山哲郎

関西学生合気道競技連盟の結成に獅子奮迅のご活躍を頂き、学生合気道の指導普及に尽くされた中井規先生が昨年十月一日に、また学生時代よりともに合気道の研鑽に励み、スイスでの合気道の指導普及に情熱を注がれた越山進吾先生が今年二月四日に、急逝されました。お二人とも私にとって、誠にたのしい先輩であり、合気道の専門家としての道を選んだ私のおかげがえない理解者でもありました。

中井規先生との思い出

私が中井先生に初めてお目にかかりましたのは1970年昭和四十五年、今から三十年程前になります。昨年お亡くなりになられた小林裕和師範の道場において、大変熱心に汗を流しておられました。以来ともに稽古を重ねてまいりましたが、当時は互いに血気盛んで負けず嫌いであったため、どちらも「もう終わりにしよう」と言い出せずに、延々と稽古を続けたものでした。中井先生は大変受けの巧い方で、いくら投げられても受身の時に音がしないため、音なしのきーや

ん」という異名があったことを覚えております。

中井規先生は関西学院大学体育会合気道部が創部された年に入学され、合気道部創設期の中心的存在であられました。卒業されてからもより一層のご活躍で、ご卒業と同時に合気道部監督に就任され、以来お亡くなりになられるまで三十五年間、合気道部の指導に全力を尽くされました。常日頃から「合気八力になるな」と学生たちにお話になっていたのは、合気道で培ったものを普段の生活においても十分に発揮してほしいという、学生思いの中井先生からの心からの願いだったように思います。

また、中井先生は関西学院大学合気道部のみならず、広く関西学生合気道の基礎作りにおいて、特に中心的な役割を果たされました。学生合気道の将来を常に案じておられ、関西学生合気道競技連盟の二代会長として、お亡くなりになられるまで関西の学生合気道の発展普及に全精力を注がれました。ご存知の通り大変お酒の好きな方であつたため、たびたび杯を酌み交わしながら、学生合気道の将来について熱く語り合ったことが、懐かしく思い出されます。毎回の学生大会では、大変気迫のこもった挨拶を頂き、学生だけではなく私も大変勇気付けられました。そしてまた常に遠来の学生に対するねぎらいの言葉を忘れず、優しい心配りをなさる方でした。豪快で情理に

熱く、ユーモアと情熱に溢れた中井先生にたいしては、学生のころから小林師範からの信頼も大変厚く、大阪武育会の副会長を長年にわたって務められました。

先生がいつも掲げておられた言葉は、「感謝・至誠・闘志」という言葉でしたが、その言葉通りに、何も見返りも求めることなく、本当に合気道の普及・発展のために人生をかけた方でした。

越山進吾先生との思い出

越山先生は1964年昭和三十九年に国士館大学に入学、合気道部に入学されました。お父上が早稲田大学の柔道部OBであり、富木先生とも親交が深かつたため、越山先生に合気道部への入部を進められたのは富木先生だったと伺っております。

創部間もない国士館大学合気道部にあつては大いに柔道経験を生かし、めきめきと頭角を現されました。私は1966年昭和四十一年に合気道部へ入部しました。当時越山先輩は三年生でしたが、入部当初より一方ならぬお世話を頂きました。当時の新入生にとって二年も上の先輩は神様のような存在でありました。私が、我々新入生にも気軽に声をかけて下さる、大らかで温かみのある先輩でした。また大変向上心に富んだ方で、当時指導的存在だった早稲田大学の稽古

や合宿等に幾度となく一緒に過ごせていただきました。これらの事は、後に私が合気道の専門家を目指す要因の一つになったように思います。

大学卒業と同時にお父上の経営される海運業を継いだ越山先輩でしたが、学生時代に培われた合気道に対する情熱は断ちがたく、家業を弟君に譲られ、1973年(昭和四十八年)に合気道の指導普及のため、早稲田大学OBの天倉博博の後任として、富木師範の推挙により、スイスへ渡られました。自らの信念に従い、それまでの地位を捨てて単身で海外に飛び込んでいくという事は、大変な意思の強さが必要ならば出来ません。まさにひたむきな合気道への情熱がなされたこと決断であったように思います。

以来ご逝去まで、二十七年間に渡りスイスの若者たちの指導育成に励まれました。着任当初は厳しい状況を強いられた時期もあつたようですが、生来の明るさと、如何なる困難にも挫けない前向きさとひたむきさで、着実に足場を固められ、危機を乗り越えられました。1997年(平成九年)にはスイス各地で個々に活動していた指導者を一堂に集め、スイス連盟を結成されるに至ります。越山先生の合気道における情熱と、誰からも好かれるお人柄があつてこそ成し得た快挙であります。現在、越山先生が直接ご指導にあたられていた5つの道場は、先生の愛弟子達がそれぞれ

引き継ぎ、総メンバーも優に百名を超えております。まさに越山先生の情熱と愛情の賜物ではないでしょうか。

お二人のあまりにも早過ぎるお別れは、合気道界にとつて大きな痛手であり、私個人にとつても最良の仲間を失う事となり痛恨の極みであります。しかしお二人の合気道に対する情熱と今後の合気道に対する御志を思えば、そのご遺志を継いで合気道の一層の普及発展に努めることこそがなによりの手向けでありましょう。今後の努力と精進を誓い、この道をまっとうすることが、お二人の道兄への恩返しになると信じております。

協会関西本部
昇段級審査会
・成人の部合格者:
平成十二年九月二十四日
於 昭道館本部

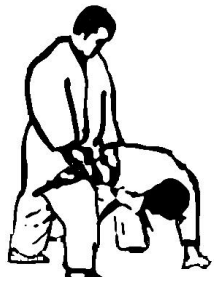
- 【八級】北原 由美(昭道館)
- 加藤 慎也(昭道館)
- 山本 優子(昭道館)
- 【七級】山岸 広幸(昭道館)
- 池田 賢治(昭道館)
- 仁(昭道館)
- 【六級】前野 隆之(昭道館)
- 米山 庸介(昭道館)
- 三好 貞夫(昭道館)
- 【二級】小尾 貞夫(昭道館)
- 【初段】川上 文教(天理大)
- 須田 喜太郎(昭道館)
- 北裏 和可(昭道館)
- 池田 真教(天理大)
- 茶山 博志(天理大)
- 木下 大樹(昭道館)
- 【四段】中村 芳勝(昭道館)
- 上月 修(昭道館)

第四回 国際合気道競技大会

来年、大阪で開催される第四回国際合気道競技大会の日程と場所が決定しました。

日程：平成十三年(2001年)十月十一日(木)～十四日(日)
(前半二日はセミナー、後半二日は競技大会)
場所：舞州アリーナ
大阪市此花区北港緑地二丁目(舞州スポーツアイランド内)
(左図参照)
交通：JR環状線西九条駅より市バス舞州スポーツアイランド行きで約20分です。

この大会は富木謙治師範の生誕百年を記念する大会でもあります。皆でこの大会を盛り上げましょう！



もやもや解決 - あなたの疑問にお答えします。 -



〇 隅落しの方向が相手によって大きく方向があるように思うのですが?



今回は山形 雅章先生に解説していただきます。

「隅落し」という技は相手の手を持って後ろ隅(二等分垂直直線の方向)にくずしてかける技です。ただかける時に前足を引かれるとかがりません。そこで基本の練習では相手の重心を前足の小指側にいったん集めて、そのまま紐(腕)が緩まないように(重心が相手の前足の外側を通るように)踏み込んでかけます。もちろん短刀で突いてきた瞬間は前足に重心が乗るのでその必要はありません。

その理合いが判つていれば、相手の手が長ければ間合いを少し多めにとればよいのです。腰の捻りで重心を集め、捻りと踏み込みでかけるので相手の腕が緩まない間合いはとて大切ですが、もちろん相手の腕の脱力具合、肩の硬さ、身体の柔らかさでかかる感じは変わってきます。しかし、理合い通りにかければかかるものです。
ただ、しっかり突いてこない相手に体捌きをする必要が無いように、正しい攻撃をしないで受けの為の受けをする者はかける前に防禦姿勢をとってかからない場合があるかも知れません。しかし、それは練習の意味が判つていないのでしょ。いろいろな人と稽古して技は身につくものです。しかし、理合い(原理)はひとつです。それが判つていれば応用は利くようになってきます。

つってこんな人

安部 隆宏 指導員編
好きな技は?
「引き落とし」。絶妙なタイミングでこの技をかける先輩があり、あんな風にかけてみたい。
合気道を始めたきっかけは?
友達にそのかきされて...
師範の印象
はじめ、厳しそうなんらしい人

九月二十四日、昇段者へ出題された口頭試問です。
もうすぐ昇段審査を受ける人も、まだまだと思っている人も、ちよつと考えて見ませんか?
式段... 守破離について
式段... 正中線について
式段... 返し技について
参段... 合気道をどう発展させるか
四段... 審判 短刀の判定基準
四段... 合気道と無心無構について

【けつこう健康?】

ファーストエイド編

酷暑も過ぎ、という文章を書いているうちに冬を迎えてしまいました。体が十分に暖まらないうちに稽古をして無理に筋を伸ばしてしまったりというケガをしやすいつ季節です。ケガをしないことが一番ですが、ケガをしてしまったら、その時にどれだけ正しいファーストエイドが行えるかによって、治療に要する期間が大幅に変わってきます。

今回は「捻挫」をしたときの救急処置をご紹介します。
- 前落として肘を極められ過ぎて痛めてしまった。時や、ふんばりすぎて足首を捻挫してしまつた。場合など、様々な場面で適用できます。



まずは多くの救急処置の基本といわれている R.I.C.E. から。

Rest ケガをしたら直ちに動かすことを止めます。
Ice 炎症を押さえるために、冷やします。「30分冷やす 15分休憩」これを約3時間繰り返します。
Compression ケガした部分の痛みや腫脹を軽減させるためにスポンジや弾性包帯で圧迫し押さえます。(ただし圧迫し過ぎないように注意してください。)
Elevation 患部を心臓より高くします。
一日3、4回、20分程度のアイシングを行います。その時、患部をタオルで覆い、その上からアイスパックを当てるようにしましょう。
ケガをしてから72時間後、状態が良くなれば、温水シャワーなどで温めます。
患部の炎症が引いたらラマッサージを施します。
あとはテーピングやサポーターなどを用いて徐々に稼働域を取り戻すようにリハビリを行います。

(これはあくまでも一般的な処置方法です。できるだけ医師の診察を受けて、その処方を最優先させてください。)

藤本 和義 指導員編
好きな技は?
「下段当て」。決まつたときの爽快感が好き。
合気道を始めたきっかけは?
武道がしてみたくつた。
師範の印象は?
はじめ、技から何まで凄いなと思つた。技から掃除までいろいろと凄いなと思つた。
安部指導員ってどんな人?
意外と甘い物(パフェとか)が大好きらしい!

自己PRをどうぞ。
昭和52年1月26日生 A型
身長:167cm(そんなに高くない)
体重:54~55kg(太らない体質)
23歳と
言うときよく驚かれる。
なぜだろう?
...



【編集係より】

この度、昭道報を復活させることになりました。今後、定期発行ができるように...と考へておりますが、その為には皆様からの声が必要ですよ。

「つってこんな人」
このコーナーでは昭道館で稽古している人を紹介します。道場ではわからない一面をのぞくコーナーです。昭道報で紹介してほしい人がいればぜひ教えてください。
本部・支部問いません。

「もやもや解決」 あなたの疑問にお答えします。
合気道に関する疑問にお答えします。疑問・質問をお待ちしております。

「掲示板」
題目の通り、お知らせ事項などを載せるコーナーです。もし、読者の皆様にお知らせしたいことがあればご利用下さい。

これら以外にも、「このよう
なコーナーがあったらなあ。」
とか、「こんなことがあったの
で記事にして欲しい。」などの
ご意見、ご希望も募集しており
ます。

それからイラストなども募集
しています。(今回は「隅落し」の
山下さんに書いていただきました。
) ありがとうございます。

ご連絡は、昭道報編集係(山形
忍・伊達・萬谷)まで...
e-mail: mancha@fdion.ne.jp
(萬谷のアドレスです。いたす
らはダメよ。)

みなさまからのご投稿、
お待ちしております!



+++ 編集後記 +++
編集長 山形 忍

昭道報第4号発行以来、12年の年月が経つてしまいました。しかし2000年の今年、長年の念願である関西合気道競技連盟広報部としての活動を開始することとなり、第5号発行の運びとなりました。

この昭道報を会員の皆さんで作る新聞にしたいと思つています。昭道館に大好きな合気道を長く続けていく為に稽古中だけではとれないコミュニケーションの場としても活用していただきたいものです。ホームページを見られない方の為に、海外を含め各地の支部の紹介等もしていきたいと思つたので、どうぞお楽しみに。

気軽にどんなことでもご投稿ください。
スタッフ一同お待ちしております。

アドバイザー・発行責任者の広報部長 中村芳勝、英語版担当のアラン・ヒッグス、ドイツ・グレイプス、日本語版担当の伊達、萬谷、山形忍が編集担当させていただきます。

広報活動においてはまだまだ白帯ではございますが、皆様のご協力をいただき未永く継続していきたいと思つています。
どうかご投稿の方よろしくお願ひ致します。